HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日韓オノマトペの対照研究 ： オノマトペの述語省略表現について
Author(s)	裴, 明文
Citation	研究論集, 10, 81-98
Issue Date	2010-12-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44602
Type	departmental bulletin paper
File Information	HAI.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

日韓オノマトペの対照研究

── オノマトペの述語省略表現について ──

裴　　明文

要　旨

本稿はオノマトペの述語省略表現について，日本語と韓国語両言語を対照して考察したものである。オノマトペとは擬音語，擬声語，擬態語，擬情語などをいい，多くの国の言語にはこのオノマトペが存在する。中でも日本語と韓国語は他の言語に比べてオノマトペの数は豊富である。したがって，使い方や表現方法もいろいろ多様に存在する。日本語と韓国語のオノマトペは，昔から多くの研究者たちによって研究されて来た。両言語のオノマトペ対照研究も最近になって盛んになり始めた。しかし，本稿のテーマである，オノマトペの述語省略表現についての日韓対照研究はあまり多くない。本稿では，日本語の場合と韓国語の場合をそれぞれ研究した。今回の研究を通じて日本語ではオノマトペによる文末の述語省略表現は可能であるが，韓国語では文章の場合は不可能であることが分かった。日本語では，述語省略表現が可能なのはすべてのオノマトペではなく，二つの場合がある。

① オノマトペが「-する」動詞あるいは「-だ」述語のように文中で述語の機能をしている場合，そのオノマトペの後ろの「する」や「だ」が省略できるので省略表現は可能である。

② オノマトペとその後続の動詞との共起制限が強ければ強いほど，述語省略表現は可能である。

日本語のオノマトペの多くは「-する」動詞あるいは「-だ」述語として使うことが可能なので，一般文章はもちろん，新聞の見出しや広告のキャッチフレーズなどでも述語省略表現は頻繁に使われる。

韓国語の場合，文章の中では述語省略表現は不可能である。理由は，韓国語の文章には強い文法制限があり，文末は必ず終結語尾「다」で終わらなければならないからである。このような文法制限は日本語には存在しない。韓国語にはこの文法制限があるため，一般文章で文末の述語がオノマトペの場合は，主に「-하다」，「-거리다」，「-대다」，「-이다」の四つの派生接尾辞を用いる場合が多い。しかし，韓国の新聞の見出しや広告のキャッチフレーズ

などでは述語省略表現が可能である。本稿では主に述語省略表現が新聞の見出しで使われた場合，日本語と韓国語ではどのような相違点があるかを研究した。

1. はじめに

述語は如何なる言語においても，最も重要かつ不可欠な要素の一つである。一般的に文は，その種類に関わらず，述語を含んでいなければならず，文脈から正確に復元出来ない限り述語を削除することは出来ない。しかしながら日本語では，次の例のように述語を省略した表現が可能である。

今日の海は南風がびゅうびゅう。　（作例）

10年ぶりの再会に彼女はしくしく。　（作例）

文は通常述語で終わらなければならないが，上の二つの文章ではそれぞれ「びゅうびゅう」，「しくしく」というオノマトペで終わっていて，いずれも述語を省略している。このような現象は日本の新聞の見出しや広告のキャッチフレーズなどでも良く使われる。

例えば

江戸川の小学生　乳搾りわくわく【朝日新聞】2005-06-29

新幹線は満員　道路はがらがら【朝日新聞】1987-12-30

ゴキブリホイホイ（アース薬品）

毎日飲んで毎日サラサラ（サントリー）

日本と韓国は昔からお隣国同士であり，文化や伝統，そして言語も含めた多くの点で似ていると言われている。オノマトペに関しては日本と韓国は他の国と比べて，相当発達している。そして，形態論や語用論的にも両国のオノマトペは非常に似ている。日本語では，上記のように述語省略表現は文章や新聞の見出しなどでは可能である。では，韓国語の場合はどうなるか。本稿ではこのような，オノマトペの述語省略表現について日韓両言語を対照して考察する。韓国語ではこのような表現が可能であるのか。可能であるなら，日本語との相違点はどのような所なのかを主に研究する。まずは日本語の場合からみてみよう。

2　日本語の場合

日本語のオノマトペは，数や形態的に他の言語に比べて，発達した言語である。それにも関わらずオノマトペの研究は他の分野に比べてあまり進んでいない。とりわけ，本稿のテーマであるオノマトペによる文末の述語省略表現については多くの学者から遠ざけられて来た。本稿は田守（1991）と奥田（2008）の研究を援用して，二つの研究結果を踏まえて研究することに

する。

2.1 田守（1991）

田守（1991）は述語省略現象が日本語で可能な理由を大きく分けて二つあると述べた。一つは述語省略現象が可能なオノマトペにはそれぞれ述語形が存在するという点である。日本語のオノマトペは典型的に副詞として用いられるが，その多くは述語としても用いられる。これには２種類の述語があり，その一つが「-する」に組み入れられて派生した動詞である。

例えば

にこにこする，ぶらぶらする，

しんとする，しゃんとする，

にっこりする，すっきりする，

どきっとする，むかっとする

にんまりする，しんみりする，

ほろりとする，にやりとする

上の例は各種の音韻形態のオノマトペが「-する」に組み入れられて派生した動詞である。このような動詞組み入れは，オノマトペに限ったものではなく，「研究する」，「テストする」，「インプットする」のように，名詞や借用語にも見られる一般的な現象であり，日本語における動詞化のもっとも生産的な方法である。しかし，動詞組み入れは非常に生産的であるが，全ての日本語オノマトペが動詞化するわけではない。動詞組み入れが可能なオノマトペは，「いらいら」，「うきうき」のような，人間の心理状態を表わす擬情語が多い[1]。

日本語オノマトペのもう一つの述語は，繋辞「-だ」を伴ったものである。

例１　　この映画館はいつもがらがらだ。

例２　　私の手はかさかさだ。

上の例１，２はオノマトペが繋辞「-だ」を伴って述語として用いられることを示している。

以上のことを踏まえた上で次の例文を見てみよう。

例３　　社長は売り上げが伸びたことににんまり。　　（田守 1991：p. 203，10）

例４　　母親は息子の交通事故におろおろ。　　（田守 1991：p. 203，10）

例５　　満員電車に４時間も揺られくたくた。　　（田守 1991：p. 203，10）

例６　　大雨のためコンサートホールががらがら。　　（田守 1991：p. 203，10）

---

[1] 『田守育啓　1991 日本語オノマトペの研究　神戸商科大学経済研究所 pp 51』では次のように述べている。「動詞組み入れ可能なオノマトペには，どうのような特徴があるかといった興味深い問題が生じるが，残念ながら，当該動詞化が可能なオノマトペ全てに共通した特徴を抽出することは出来ない。しかし，人間の心理状態を記述する擬情語は，例外なく動詞組み入れが可能である。」

上の例文は，述語が省略されていて，その代わりにオノマトペで終わっている。これらの文には述語がないけれども，文の意味を解釈するには，少しも困難ではなく実際それぞれの文の意味を簡単且つ正確に理解することが出来る。ここで，注目すべきことは，これらのオノマトペにはそれぞれ述語形が存在するということである。すなわち，例文3の「にんまり」と例文4の「おろおろ」には「-する」動詞が，例文5の「くたくた」と例文6の「がらがら」には「-だ」述語形が存在する。したがって，これらはもともと「-する」動詞と「-だ」述語の一部であり，述語の要素が削除されて，その結果オノマトペだけが残されたと考えることが出来る。

田守（1991）が挙げたもう一つの理由は文中のオノマトペと後続する動詞との共起制限である。

次に，例文を見てみよう。

例7　　着陸に失敗し胴体ぽっきり。

例8　　関東地方ぐらり　防災訓練も真剣

上の例文7は現実文で，例文8は新聞の見出しである。本稿では，日本語の場合現実の文におけるオノマトペの述語省略表現と新聞の見出しに見られるオノマトペの述語省略表現とのあいだの違いはないと仮定して論を進める。例文7,8のオノマトペは例3～6とは違い，「-する」動詞も「-だ」述語も存在しない。したがって，これらのオノマトペは，「-する」や「-だ」が削除されて派生したと考えることは出来ない。これらの表現は，述語が省略されて派生したと考えるべきである。これらは，述語が省略されているが，省略されている述語をそれぞれ簡単になおかつ正確に復元することが出来る。例文7には「折れる」を，例文8には「揺れる」を補うことが出来る。なぜこのように，述語が正しく復元出来るのだろうか。これは，これらのオノマトペが動詞と強い共起制限を持っているからだと考えられる。例文7の「ぽっきり」と例文8の「ぐらり」は，それぞれ一種類の動詞としか共起することが出来ないため，述語が省略されても，その述語を復元することができ，動詞を含まない表現も，その意味を正確に解釈することが出来る。しかし，動詞との共起制限はオノマトペによって異なる。

例えば

（星，ダイヤモンド，金，瞳）きらきら（光る）

（ビール，水，酒，コーラ）がぶがぶ（飲む）

このように「きらきら」と「がぶがぶ」は，それぞれ一種類の動詞としか共起することが出来ない。「きらきら」はその主語に関わらず「光る」という動詞としか共起出来ない。「がぶがぶ」は，その目的語に関わらず「飲む」としか共起することが出来ない。従って，これらのオノマトペと共起する動詞は，無条件で省略出来る。

逆に，動詞との共起制限が非常に緩いオノマトペもたくさん存在する。

例文9　　＊彼女がリンゴをこっそり

上の述語省略表現は，非文と見なされる。これは，「こっそり」は「盗む」，「食べる」，「捨

てる」など，いくつかの動詞と共起することが出来るので，どの動詞が省略されたのか特定することが出来ないためである。

このように田守（1991）では２つの主な理由を挙げて述語省略表現は日本語において可能であることを示した。しかし，オノマトペ全体を「-する」動詞，「-だ」述語というふうに大きく二つに分けて研究しただけで，細かい分析はしていない。これに比べて奥田（2008）では述語省略表現が可能なオノマトペを非常に細かく分けて分析している。

2.2 奥田（2008）

奥田（2008）はまず，述語省略表現の用例を収集するに当たって，野田（1987）による擬音語・擬声語の分類を援用した。野田（1987）は『外国人のための基本用語例辞典』（1975）（文化庁）の「擬声語・擬音語について」という付録を用いてオノマトペを文法的性質によって分類している。

その分類とは次のようなものである。

A　副詞（単独・-と）の形しかないもの，及び副詞（-と）の形しかないもの

びゅうびゅう，ぶんぶん，くすくす，ひそひそ，ぐるぐる，ころころ，ずんずん

実際の音を模して表現する場合は，全てAに属する。

B-1　形容動詞（-だ・-に・-な・-の）だけのもの

きちきち，すれすれ，へとへと，ぼろぼろ，めちゃめちゃ

B-2　動詞（-する），形容動詞（-だ・-に・-な・-の）の二つの用法があるもの

だぶだぶ，ひやひや

C　副詞（単独・-と），動詞（-する）の二つの用法があるもの

a. 意味の違いのないもの

にこにこ，うとうと，ちらちら，うろうろ，こそこそ，ひりひり

b. 二つの用法の間に意味の違いがあるもの

ごろごろ，とうとう，ぴちぴち，しくしく，しょぼしょぼ，ぞくぞく

D　副詞（単独・-と），形容動詞（-だ・-に・-な・-の）の二つの用法があるもの

a. 副詞が音あるいは動きを表し，形容動詞が状態を表わすもの

かちかち，からから，ぎりぎり，とんとん，ばらばら，ゆるゆる

b. その他（ぎゅうぎゅう，かんかん，たらたら）

E　副詞（単独・-と），形容動詞（-だ・-に・-な・-の），動詞（-する）の三つの用法があるもの

a. 用法による意味の違いが少ないもの

ぐらぐら，つるつる，とろとろ，ぬるぬる，ぴかぴか，ふわふわ，べたべた

b. 副詞（単独・-と）が音・動作の様子を表わし，他が状態・性質を表わすもの

かさかさ，はだはだ，ばりばり，ぶくぶく，ぺこぺこ，ぺらぺら

奥田はこの分類に取り上げているオノマトペのそれぞれについて，述語省略表現の例文の有無を調べて次のような結論を出した。「これらのオノマトペが文中で述語として用いられる際，A は副詞としての機能しか持たず，B は形容動詞または動詞としての機能しか持たない。これに対して C，D，E は副詞としての機能と，動詞又は形容動詞としての機能を併せ持っている。ここで注目すべきなのは，これらのうちで副詞としての用法が「音」を表して，動詞・形容動詞としての用法が「状態」を表わすものである。これらについては文末に用いられる際には，いずれも動詞・形容動詞としての用法が持つ「状態」の意味の方が優勢になる」

奥田はこのように細かく分類して述語省略表現が可能なオノマトペについて研究した。しかし，奥田の研究も問題点が生じる。それは，研究に用いたオノマトペのほとんどが単純反復形のオノマトペであって，他の形態のオノマトペについてはあまり言及してないところである。

次に奥田は副詞として用いられるオノマトペと動詞との意味的関係について研究した。奥田はここで筧（2001）の研究を援用した。筧（2001）では日本語におけるオノマトペとそのオノマトペに修飾される動詞との関係を次の3種類に分類している。

①　相互関係

例　にっこり　ほほえむ

「にっこり」の後で自然に用いられる動詞は通常「ほほえむ」であり，逆に「ほほえむ」はその前に「にっこり」を自然に想起させる。ここでは「にっこり」と「ほほえむ」は相互に独立して，いずれか一方だけでも「にっこり　ほほえむ」の全体とはほぼ同じ意味を表す。

②　一方依存

例　ずきんずきん　痛む

「痛む」は「ずきずき」や「しくしく」「きりきり」などいくつかのオノマトペによって限定される可能性がある。つまり「ずきんずきん」であれば必然的に「痛む」につながるが，逆は成りしない。

③　相互無依存

例　ゆっくり　歩く

この「ゆっくり」と「歩く」は，この結びつき以外にもお互いがそれぞれより広範囲な他の結びつきを許す。

奥田はこの分類を用いて，オノマトペと動詞との共起制限を研究した。つまり，オノマトペと共起する動詞が制限されている場合が①と②であり，制限されてない場合が③である。そして，次のような結論を出した。「変化の様子や主語の態度や心の状態というのは，いずれも幅広い事行と結びつき得るので，共起する動詞に対する意味的な制限は極めて弱い。」

この研究方法は田守（1991）と非常に似ていて，両者とも述語省略表現は日本語において可能であることをうったえた。さらに，こうした表現はいずれも極めて口語的ではあるのだが，

次のような商品のキャッチフレーズや新聞記事の見出しなどでよく用いられるように，その多くは書き言葉にしか表れないと述べている。

例 10　　コラーゲンでお肌ぷるぷる

例 11　　これで英語ぺらぺら

例 12　　「統一選への影響心配」地方やきもき　【産経新聞】2010-9-1

例 13　　フミヤの主題歌ナマ披露に高良建吾　ウットリ【yahoo ニュース】2010-9-2

これらは適切な動詞などを補えば通常な文章になれるが，簡潔に表現することによってインパクトが直接的に伝わって，様々な表現効果が生まれる。このように日本語の場合，文章のみではなく，新聞の見出しや広告のキャッチフレーズなど，幅広く使われている。しかし，日本語の場合，全てのオノマトペが述語になれるわけでもない。まず，「-する」動詞と「-だ」述語の形態を持っているオノマトペは可能である。次に，文末のオノマトペが後続の動詞との共起制限によって可能か否かが左右される。共起制限が厳しい場合は述語省略表現は可能であるが，共起制限が緩い場合は述語省略表現は不可能である。

3　韓国語の場合

韓国語のオノマトペの数は日本語より豊富である。そして，口語的にも書き言葉的にも韓国語では，オノマトペの使用頻度は日本語より高いと思われる。しかし，韓国語も日本語と同様，オノマトペの研究は他の分野に比べて非常に遅れている。このような背景もあるので，数少ないオノマトペに関する研究の中でも，述語省略表現に関する研究はより少ない。その中で신중진（1998）と채완（1993）は，この述語省略表現を認めている。しかし，2 人ともこの表現については認めているが，現実的に使われているかどうかについては言及していない。

本章では，述語省略表現は果たして韓国語において可能なのかを考察する。日本語でも韓国語でも，オノマトペは副詞の下位分類に属していてほぼ副詞とみなされる。しかし，オノマトペと副詞は全く同じものではない。ここではまず，韓国語のオノマトペと副詞の相違点を考察する。上記のように，韓国語ではオノマトペは通常副詞とみなされる。すなわち，副詞は文の中で絶対的に必要な成分ではなく，ただの付加語に過ぎない。そして，必ず他の語を修飾する機能を持っている。これはオノマトペと非常に似ている。

3.1　オノマトペと副詞の共通点

次の例文を見てみよう。

例 14　　범우, 빨리 피해　ボンウ，早く逃げて。

例 15　　여봐라 저놈을 매우 쳐라　あいつを強く叩いて。

例 16　　봉순이는 재미있다는 듯이 깔깔깔 웃었다　ボンスンはにこにこ笑った。

例17　　기발이 살랑살랑 흔들렸다　旗がゆらゆら揺れる。

例文14，15は副詞が後続の述語を修飾する例で，例文16，17はオノマトペが後続の述語を修飾する例である。このようにオノマトペと副詞は文章の述語を修飾する所は共通点なので，ほぼ全ての辞書ではオノマトペを副詞とみなしている。また，オノマトペと副詞は文の中で両方とも簡単に省略出来る。これは上でも述べてあるが，両方とも文章の中で絶対的に必要な成分ではなく，ただの付加語に過ぎないからである。

例14′　　범우，피해

例15′　　여봐라 저놈을 쳐라

例16′　　봉순이는 재미있다는 듯이 웃었다

例17′　　기발이 흔들렸다

このように例文14-17は文の中で副詞あるいはオノマトペが省略されても，文章の意味はあまり大きく変わらない。

オノマトペと副詞のもう一つの共通点は両方とも文章の中で名詞として使うことが可能であるところである。

例文18　　엎치락뒤치락을 계속했다

例文19　　타박타박이라도 걸어서 넘어가야 한다

このように例文18-19ではオノマトペが名詞としての役割をしている。

3.2　オノマトペと副詞の違う点

次は，オノマトペと副詞の違う点について見てみよう。

例文20　　산봉우리가 매우 높이 솟았다　峰がとても高い。

例文21　　산봉우리가 우뚝우뚝 높이 솟았다　峰が高い。

例文22　　철수가 아주 급히 달려갔다　チョルスがとても急いで走った。

例文23　　철수가 허둥지둥 급히 달려갔다　チョルスが急いで走った。

例文20，22は「副詞1＋副詞2＋述語」の形である。対して，例文21，23は「オノマトペ＋副詞＋述語」の形を取っている。一見，似ているように見えるが例文20，22の「副詞1」と例文21，23のオノマトペが修飾する対象は明らかに違う。

例文20′　＊산봉우리가 매우 솟았다。

例文21′　　산봉우리가 우뚝우뚝 솟았다。

例文22′　＊철수가 아주 달려갔다。

例文23′　　철수가 허둥지둥 달려갔다。

例文20′と22′が非文と見なされる理由は例文20，22の「副詞1」である「매우，아주」は後続する「副詞2」「높이，급히」を修飾しているため，被修飾語である「副詞2」は省略出来ないからである。対して，例文21′と例文23′が成立する理由は，オノマトペ「우뚝우뚝，허

둥지둥」は後続する副詞を修飾するのではなく，文末の述語を修飾しているため，副詞を省略しても文としては成立するからである。ここで分かるように，副詞とオノマトペの違う点は一部の副詞は他の副詞を修飾することは出来るが，オノマトペは他のオノマトペや副詞を修飾することは出来ないことである。

韓国語のオノマトペと副詞のもう一つの違う点は，オノマトペは副詞と違って被修飾語がなくでも，文の中で自由に使えるところである。

例文 24　＊산봉우리가 매우。

例文 25　？산봉우리가 우뚝우뚝。

例文 26　＊철수가 아주。

例文 27　？철수가 허둥지둥。

上の例文の中で 24，26 は非文になる。理由は副詞「매우」，「아주」には動詞性がないため，この二つの例文は述語がない文になるからである。つまり，情報が足らないので意味が通じないのだ。これに対して例文 25，27 はオノマトペ自身が強い動詞性を持っているため，述語がなくても意味が通じる。しかし，これらも韓国語の場合文にはなれない。신중진（1998）と채완（1993）もこのような見方をしていると述べたが，신중진（1998）は韓国語の全てのオノマトペがこのように述語省略表現が可能であると述べたのに対して，채완（1993）は全てではなく，限定されたオノマトペのみが，述語省略表現が可能であると述べた。本稿も채완（1993）の説に賛同する。韓国語の場合，述語省略表現が可能なオノマトペは限定されていると思われる。どのような，オノマトペが使用可能かについてはこれから更なる研究が必要であるが，概ねここでも田守（1991）の説が適用されると思われる。つまり，韓国語も日本語と同様，述語省略表現は可能であるか否かは，そのオノマトペが持っている，動詞との共起制限によって決められる。

例文 28　？온집안이　와글와글

例文 29　　온집안이　싱글벙글

例文 28 が曖昧になる理由は，例文 29 の場合，オノマトペ「싱글벙글」の後続には「웃다」という動詞しか付けられないが，例文 28 のオノマトペ「와글와글」の後続には「법석이다」，「붐비다」，「떠들다」など複数の動詞があり得るからである。

このように，韓国語にも述語省略表現が可能であるように思われる。しかし，実際の韓国語では文としては述語省略表現は不可能である。

3.3　韓国語で述語省略表現が文章では不可能な理由

韓国語で述語省略表現が文章では不可能な理由は，韓国語の文には強い文法制限が存在するからである。韓国語の文の場合，文末は必ず用言で終わらなければならない。すなわち，文末は必ず終結語尾「-다」で終わらなければならない。韓国語の用言は 4 つ品詞動詞，形容詞，

存在詞，指定詞のことを指す。動詞と形容詞の他に存在詞「있다」（ある）「없다」（ない）と指定詞「이다」（です）「아니다」（ではない）が用言に属する。韓国語では動詞も形容詞もすべて，原型は「-다」で終わるので，言い換えれば文末は必ず「-다」で終わるになる。このような文法制限があるため，他の品詞が文末になることは不可能である。

例えば

私の父は先生だ（です）。

나의 아버지는 선생님이다（입니다）。

この例文の場合，「先生」という名詞を文末にするので日本語では述語「だ」を用いて韓国語では指定詞「이다」を用いた。ここで，日本語では「-だ」あるいは「-です」が簡単に省略できる。しかし，韓国語では「-이다」「-입니다」は省略できない。これは，副詞（オノマトペ）が述語になる場合も同じである。

弟が私も見てにこにこ（する）。

동생이 나를 보고 생글생글（거리다）。

この場合，日本語ではオノマトペ「にこにこ」をする動詞に変形して用いたに対して，韓国語ではオノマトペ「생글생글」に「거리다」を付けて述語として使用している。この「거리다」は4.3章で詳しく説明するが，一種の接尾辞としてオノマトペに付けることによってそのオノマトペに動詞性を与える役割をする。従って，そのオノマトペは文末で述語として用いられる事が可能になる。しかし，ここでも日本語では「する」を省略しても文と認められるが，韓国語の場合「거리다」を省略したら，意味は通じても文とは認められない。このような文法制限が韓国語にあるため，韓国語では文の場合述語省略表現は不可能である。しかし，文ではなく新聞の見出しや広告商品のキャッチフレーズの場合は日本語と同様，述語省略表現は頻繁に使われる。

[2010 프로축구 k-리그] 부산 서울 FC 만나면 펄펄【국제신문】2010-5-2

학교교실 외벽이 온통 낙서로 얼룩【국제신문】2010-3-27

보안 이유로 닫았던 청사 문 활짝【서울신문】2010-3-3

고객만족 "쑥" 직원만족 "뚝"【서울신문】2010-3-13

"너무 추워 일 못하겠어요" 정부청사 공무원 덜덜덜【서울신문】2010-1-5

このように韓国語の場合，文末では述語省略表現が不可能であるが，新聞の見出しなど文末ではないところではたくさん使われている。

4　新聞の見出しで使われる述語省略表現

前章までの考察で日本語では述語省略表現が可能で，韓国語の場合は文末では不可能である

が，新聞の見出しでは可能であることが分かった。この章では，述語省略表現が新聞の見出しで使われた場合，日本語と韓国語はどのような相違点があるかを考察する。まず，日本の新聞で述語省略表現が使われた実例を見てみよう。

4.1　日本語の場合

1. えっ　上半身裸？エロタッキーにドキ！【芸能ニュース】2010-08-15
2. 挙式で“恐妻理子”披露に純一はタジタジ【芸能ニュース】2010-08-09
3. SDN48 芹那が色気ムンムン【芸能ニュース】2010-07-30
4. 山本アナ転落時が午前 3 時に「ズシン」【芸能ニュース】2010-07-29
5. 氷川きよし着流し一転胸見せ腰グイグイ【芸能ニュース】2010-07-21
6. CPS 衛星「みちひき」11 日打ち上げ位置精度ぴったり【毎日新聞】2010-9-3
7. イノシシ大暴れ？　国宝建物の障子ビリビリ【朝日新聞】2010-08-31
8. 連休スタート噴火収まり，欧米渡航組「ほっ」【朝日新聞】2010-04-29
9. 「デフレ宣言，心理面に影響」日銀総裁　菅氏にチクリ【朝日新聞】2010-04-13
10. 都宮動物園　暑いよ　動物もぐったり【毎日新聞】2010-09-3
11. 寝不足の菊五郎「W 杯後半は体コチコチ」【芸能ニュース】2010-06-15
12. 舘ひろしが初ドラム「心臓バクバク」【芸能ニュース】2010-07-20
13. オリックスの小松，久々の先発勝利「これからバリバリ」【朝日新聞】2010-05-13

日本語の新聞の見出しの場合，使われたオノマトペのほとんどは「-する」動詞あるいは「-だ」述語から省略されたので述語省略表現は可能である。そして例外である 13 の「バリバリ」は後続の動詞との共起制限が強いので，この場合も述語省略表現は可能である。つまり，日本語の場合文章でも新聞の見出しでも述語省略表現が可能な環境は同じである

次は，韓国の新聞で述語省略表現が使われた実例である。

4.2　韓国語の場合

1. 경기　둔화 가능성 모락모락【경향신문】2010-08-31
2. 스펀지 제로 저주어 걸린 사건공개 오싹【경향신문】2010-08-28
3. 좀비 PC. 보호나라 네티즌들 화들짝【경향신문】2010-08-28
4. 화끈해진 태권도 보는 재미도 후끈【경향신문】2010-08-24
5. 안신애, 시즌 2 승 챙기고 상금 1 위 로 껑충【경향신문】2010-08-15
6. LH, 사업구조조정 시작부터 삐걱【경향신문】2010-08-03
7. 세븐 터프하게 옷 훌렁【서울신문】2010-08-29
8. 좀비 PC, 정보부터 도촬까지 사생활 침투 섬뜩【서울신문】2010-08-27
9. 윤도현 입꼬리 방긋【서울신문】2010-08-25

10. 박신체 속보일듯말듯 아슬아슬【서울신문】2010-09-01
11. 이정진 긴 다리로 성큼【서울신문】2010-08-31
12. 개그우먼도 몸짱시대 천수정 비키니 몸매 아찔【서울신문】2010-08-29
13. 태도논란 김그림, 아버지까지 나섰지만 여전히 싸늘【서울신문】2010-08-28
14. 제소득층 자녀 자원 교육비 꿀꺽【세계일보】2010-09-01
15. 시프트 2000 여가구 이달 공급 실수요자 기웃【세계일보】2010-09-01

今回の論文のために，筆者は韓国の新聞のから実例を合計61個集めた。これらを集計してまとめたのが表1である。

新聞：경향신문，서울신문，세계일보，한국일보，조선일보
日付：2010年8月8日から2010年9月1日まで

表1

	単純反復形 ＡＢＡＢ	語基単独形 ＡＢ	語基単独形 Ａ	合計
スポーツ・芸能	10	20	16	46
政治・社会	2	8	5	15
合計	12	28	21	61

前章で述べたように，韓国語では文の場合，述語省略表現は不可能であるが，新聞の見出しではたくさん使われている。文の場合は強い文法制限が働くが新聞の見出しのような文ではない場合は文法制限が機能しないからであると思われる。では，これらの新聞の見出しを通常の文に復元してみよう。復元された文は上記の文法制限を受けるためすべての文は終結語尾「-다」で終わる。このときオノマトペにただ「-다」をつけるのではなく，接尾辞を用いてオノマトペを用言化させる必要がある。韓国語にはこのような接尾辞が主に「-하다」，「-거리다」，「-대다」，「-이다」の四つが存在する。それぞれ使い方や使用頻度は異なるがこれらの接尾辞をオノマトペに付けると，オノマトペは動詞あるいは形容詞の役割をするので日本語のように文の述語として使うことが可能になる。

4.3　韓国語の接尾辞

以下では，これらの接尾辞はどのような使い方をするのか，使用頻度はそれぞれどうなっているのか詳しく見てみよう。

4.3.1　動詞の場合

「-하다」形

「-하다」形オノマトペ動詞は単純反復形のオノマトペを語幹とするものが圧倒的に多く，その他に類音反復形や単一形語幹に付く場合もある。

例文30　医者は長い間診察をすると首をしきりにかしげました。

의사는 오랜시간 진찰을 하더니 고개를 갸웃갸웃했습니다.

例文31　警察の話を聞いて首をこくりとうなずきました。

경찰의말을 듣고 고개를 끄덕끄덕했습니다.

例文32　首をぺこりと挨拶しました。

고개를 꾸벅하며 인사를 했습니다.

例文33　弟の顔を見てどきっとしました。

동생의 얼굴을 보고 가슴이 철렁했습니다.

例文30，31は反復形オノマトペを語幹とする「-하다」形動詞の用例であり，例文32，33は単一形語幹の用例である。反復形は動作の繰り返しや継続を，単一形は一回だけの動作や現象を表わしている。したがって，次のように単一形語幹／単純反復形のオノマトペ動詞の対が出来る。

首をかしげる（갸웃하다）　　しきりに首をかしげる（갸웃야웃하다）

こくりとする（끄덕하다）　　こっくりこっくりする（끄덕끄덕하다）

ぺこりとする（꾸벅하다）　　ぺこぺこする（꾸벅꾸벅하다）

また，「-하다」形は例文34のように類音反復形に付く場合もある。

例文34　にこにこしながら部長に話かけました。

싱글벙글하면서 부장에게 말을 걸었다.

類音反復形の例として他に次のようなものがある。

もじもじする（우물쭈물하다）　　そわそわする（싱숭생숭하다）

あたふたする（엄벙덤벙하다）　　がちゃがちゃする（왈각달각하다）

「-거리다」形

「-거리다」形はオノマトペ動詞形成接尾辞の中で最も使用頻度が高い。

例文35　何かを探すようにきょろきょろしている。

무언가를 찾는 듯 두리번거리며 올라왔습니다.

例文36　蜂蜜に刺された所がちくちくする。

꿀벌에 찔린부분이　따끔거린다

「-거리다」は反復の意味を表わす接尾辞であるので，一般に例文37，38のように単一形オノマトペに付き，同じ動作・状態が繰り返されることを表わす。従って，単純反復形に付くと

その反復性を失うが，例外もある。

例えば（두리번두리번거리다）きょろきょろする　　（머뭇머뭇거리다）もじもじする

「-거리다」は基本的に母音で終わるオノマトペ語基には付かない[2]。そして1音節のオノマトペにも付かず，必ず反復形に付くのである。これは「-거리다」と「-대다」の最大の違いである。「-거리다」形オノマトペは動作の反復・継続を表わしているため，「単純反復形＋하다」のタイプのオノマトペ動詞とほとんど同じ意味を表わす。

例えば

가물가물하다 가물거리다（ゆらゆらする）

끄덕끄덕하다 끄덕거리다（こっくりこっくりする）

비틀비틀하다 비틀거리다（よろよろする）

중얼중얼하다 중얼거리다（ぶつぶつつぶやく）

この二つのタイプのオノマトペ動詞の数はほぼ同じであるが，使用頻度は「-거리다」形が圧倒的に多い。

「-대다」形

「-대다」と「-거리다」非常に似ている接尾辞である。従って，「-거리다」が付くオノマトペは全てにおいて「-대다」に置き換えることが出来る。そして，上でも述べてあるように，「-대다」は単一形のオノマトペにしか付かない。

例えば

こそこそする（소곤대다）　　ばたばたする（허우적대다）

「-거리다」と「-대다」はどちらも「音や行動が引き続き繰り返されることを表す」ものとしているが「-대다」は「その状態が非常にひどいことを表す」ものとしている。

「-이다」形

「-이다」形も生産性の高いオノマトペ動詞形成接尾辞である。「-대다」に比べるとかなり使用頻度が高い。「-이다」も単一形のオノマトペの語基に付くのが普通である。通常「-이다」形動詞の語幹となるオノマトペは「ㄱ」，「ㅇ」，「ㄹ」で終わるものに限られる。

例えば

「ㄱ」＝（끄덕이다）うなずく，（반짝이다）輝く，（속삭이다）ささやく

「ㅇ」＝（휘청이다）ふらつく，（덜컹이다）がたがたする

「ㄹ」＝（지껄이다）ぺちゃくちゃ，（망설이다）ためらう

---

[2] 人間の笑い声や動物の鳴き声を表わすオノマトペ語基に付く場合はある。히히거리다，재재거리다

その他

オノマトペ動詞を派生する接尾辞には上に挙げた4種の他に次のようなものがある。

「-떨다」形

（이지렁떨다）とぼける　　（이지렁스럽다）しらんぷりしている

（새살떨다）もやみにはしゃく（새살새살）ニコニコ

「-치다」形

（톡탁치다）ことの善し悪しを考えないで除いてしまうく（톡탁）こつん

「-지다」形

（꼬부라지다）曲がるく（꼬불꼬불）くねくね

（비틀어지다）ねじれるく（비틀비틀）ふらふら

（얼룩지다）まだらになるく（얼룩얼룩）まだらに

「-트（뜨）리다」形

（가든그뜨리다）簡単にとりまとめるく（가든가든）気軽なさま

（꼬부라뜨리다）折り曲げるく（꼬불꼬불）くねくね

（시들어뜨리다）しおらせるく（시들시들）しおれておるようす

「-그리다」形

（가든그리다）簡単にとりまとめるく（가든가든）気軽なさま

（뺑당그리다）（顔を横に振って）嫌がるく（뺑글뺑글）ぐるぐる

（찡그리다）顔をしかめるく（찡긋찡긋）顔をしきりにしかめるようす

（쭝그리다）耳などをまっすぐ立てるく（쭝긋쭝긋）ぴんとたつようす

（쭈그리다）しゃがむく（쭈글쭈글）しわしわ

「-부리다」形

（게정부리다）不平がましい態度を取るく（게정게정）ぶつぶつ

（이기죽부리다）ちねちねといやみを言うく（이기죽이기죽）ねちねち

「-피우다」形

（게으름피우다）いばるく（거드럭거드럭）偉そうに横柄な態度をとるようす

4.3.2　形容詞の場合

「-하다」形

韓国語のオノマトペ形容詞としては，数においても使用頻度においても「-하다」が圧倒的に多い。

例文39　鼻がじーんとなる。코가 시큰했다.

例文40　荷物がずっしりして重い。짐이 묵직하고 뻐근하다.

例文41　部屋が暖かくて住みやすい。방안이 뜨끈뜨끈하고 살기 편하다.

例文42　ふっくらしたご飯を下さい。고슬고슬한 밥을 주세요

例文39，40は単一形オノマトペを語幹とした例であり，例文41，42は反復形オノマトペを語幹とした例である。多くの場合，次のように単一形語幹／反復形語幹の対ができる。

（物が）思ったより軽い（거뜬하다）　（複数の物が）みな軽い（거뜬거뜬하다）
かなり軽い（거뿐하다）　（複数の物が）みなかなり軽い（거뿐거뿐하다）
熱い（뜨끔하다）　非常に熱い（뜨끔뜨끔하다）

単一形語幹／反復形語幹の対がある場合，反復形は単一形の意味を強調，あるいは対象の複数性を意味する。

「-스럽다」形

「-하다」の次に生産性が高い接尾辞は「-스럽다」形であるが，使用頻度はそれほど高くない。大半は単一形オノマトペに付くが，1音節反復形を語幹にするものもいくつがある。多くは「-하다」形形容詞と交替する。

単一形

（끔직스럽다）むごたらしい＜＝＞（끔직하다）むごたらしい
（시원스럽다）さっぱりしている＜＝＞（시원하다）すっきりしている
（엉큼스럽다）腹黒い所がある＜＝＞（엉큼하다）腹黒い
（능청스럽다）しらじらしい＜＝＞（능청하다）しらじらしい

1音節反復形

（깐깐스럽다）ねちねちしている＜＝＞（깐깐하다）ねちねちしている
（뻔뻔스럽다）ずうずうしい＜＝＞（뻔뻔하다）ずうずうしい
（빤빤스럽다）ずうずうしい＜＝＞（빤빤하다）ずうずうしい

オノマトペ形容詞を派生する接尾辞には，上の二つのほかに次のようなものがある。

「-어ㅎ다」形

（동그랗다）まんまるい＜（동글동글）まんまる
（둥그렇다）まるい＜（둥글둥글）まるまる

「-맞다」形

（능글맞다）とてもずうずうしい＜（능글능글）ずうずうしいようす

「-ㅂ다」形

（간지럽다）くすぐったい＜（간질간질）くすぐったいようす
（미끄럽다）つるつるしている＜（미끈미끈）つるつる

「-지다」形

（끈덕지다）粘り強い＜（끈적끈적）ねばねば
（아롱지다）まだら模様だ＜（아롱아롱）まだらに

このように，韓国語ではオノマトペに接尾辞をつけることによって，用言化ができるので新聞の見出しの語尾では接尾辞が省略された形でたくさん使われている。しかし，新聞の見出しという同じジャンルである使い方において日本語と韓国語の場合は全く同じだとはいいがたい。

4.4　日本語と韓国語の相違点

まず統語論から見た場合，日本語では「-する」動詞，「-だ」述語の場合と後続の動詞との共起制限が強い場合は新聞の見出しで述語省略表現が可能である。これに対して，韓国語では本稿で挙げたいくつかの接尾辞を付けて用言化か可能なオノマトペは，すべて新聞の見出しで述語省略表現が可能である。そして，日本語と同様オノマトペと後続の動詞との共起制限が強い場合でも述語省略表現が可能である。

次に形態論から見た場合，まず両言語とも単純反復形のオノマトペが最も多く使われる。これは両言語とも所有するオノマトペの中で単純反復形が最も多いからであろう。そして両言語ともかなりの確率で述語のみではなく，助詞も省略している。いわば，単語並べ形式である。見出しを短く，コンパクトにしてさらにオノマトペというインパクトがある単語を加えることで読者の興味を一層強く喚起させるのが目的であるからだと思われる。一方，両言語の異なる点は日本語では単純反復形をそのまま使うのに対して，韓国語では単純反復形をさらに半分に省略してABAB形ではなく，AB形に短縮して使うところである。韓国語では今回集めた61個の実例中約半分の28個がこれに当たる。これは日本語と韓国語の一番大きい違いである。日本語にはこのような現象はない。例えばオノマトペ「ヌルヌル」を「ヌル」単独で使うことはできない。しかし，韓国語では単純反復形であればほとんどが半分に短縮して使う事が可能である。なぜ，韓国語ではこのような現象が可能なのかは，これからの課題にしたい。

最後に社会言語学から見た場合，両言語とも政治や経済などの社会面ではなく，スポーツや芸能などのエンターテイメント面の記事で述語省略表現を多く使う傾向が見られる。これは，人間の心理状態を表す擬情語を政治面などでは見出しにしないという傾向があるからと思われる。

5　終わりに

本稿では日本語と韓国語で使われる述語省略表現を対照研究した。とりわけ，新聞の見出しで頻繁に見られる述語省略表現を主な考察対象にした。集めた実例が少ないので十分な研究ができたとはいいがたいが，いくつかの結論を出すことはできた。今後の目標として，日本語の場合，果たして文の中で使われる述語省略表現と新聞の見出しなどで使われる述語省略表現とのあいだには本当に違いがないのか，なぜ韓国語の場合文末では述語省略表現が不可能である

が新聞の見出しなどでは可能であるのかなど，より深いところまで研究を進めたい。

（はい　めい　ぶん・言語文学専攻）

参考文献

田守　育啓　『日本語オノマトペの研究』神戸商科大学研究叢書　神戸商科大学経済研究所　1991

佐藤　有紀　「新聞見出しにおける擬音語・擬態語の動詞欠如表現」『留学生教育』8　pp.17-31　埼玉大学　2006

奥田　智樹　「文末で用いられるオノマトペについて」『論集：異文化としての日本』pp.93-102　名古屋大学大学院国際言語文化研究科　2009

채완　「의성어・의태어의 통사와의미」『새국어생활』3-2　pp.54-72　국립국어연구원　1993（「擬声語・擬態語の統辞と意味」『新国語生活』3-2　pp.54-72　国立国語研究院）

신중진　현대국어의성의태어연구　서울대학교 대학원석사학위논문　1998（「現代国語擬声擬態語研究」ソウル大学大学院修士学位論文）http://www.hangeul.pe.kr/symbol/symbol.htm